

マイコプラズマ抗原検査				8129800	
				担当部署	
マイコプラズマ				微生物	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		該当なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*7.特殊細菌→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		・本キットによって陰性となっても、マイコプラズマ感染の疑いを完全に否定するものではない。 ・咽頭拭い綿棒による検体採取で、拭い液の採取不足が生じた場合には正確な結果が得られない可能性がある。綿棒で確実に検体採取を行った後に、再度の測定を行うなど注意が必要である。 ・試料により、試料中の目的成分以外の物質との反応や妨害反応を生ずることがありますのでご注意ください。測定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果と併せて、担当医師が総合的に判断すること。			
検査受付時間		緊急対応（24 時間）			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		該当なし			
検体採取の特別なタイミング		特になし			
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	咽頭	細菌 綿棒 6	なし		
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			

	採取後直ちに提出								
検体受入不可基準	1) 検査ラベルがない検体 2) 専用の綿棒以外で採取された検体 3) 乾燥した検体								
保管検体の保存期間	保存不可								
検査結果・報告									
検査室の所在地	病院棟 3 階 中央検査部								
測定時間	当日中								
生物学的基準範囲	陰性 (－)								
臨床判断値	該当なし								
基準値				単位	なし				
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値				
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし				
パニック値	高値	該当なし							
	低値	該当なし							
生理的変動要因	該当なし								
臨床的意義	マイコプラズマ感染の主な臨床的徴候は、発熱を伴う気管・気管支炎であり、痰を伴わない咳が小児および成人に起こる。一般的に夏の数カ月の間に起こりやすい。マイコプラズマに感染した患者の約 10～15%だけが細気管支炎や肺炎を発症する。まれながら呼吸器以外に重篤な徴候が表れることがあり、心臓や神経系の兆候が自己免疫による機序によって現れる可能性がある。またマイコプラズマ感染は免疫病理学的な機序に基づいて、急性呼吸窮迫症候群（ARDS）などの重篤な肺損傷を起こすことが明らかとなっている。 「下気道感染症検査ガイドライン 第 1 版 2008 年」								